

映画台本: 雨月物語 (校正済)

※この台本は音声認識AIによる下書きをベースに、文脈に合わせて校正したものです。

時間	セリフ内容
00:03:08	大きな望みを持たずに出世ができるか。
00:03:44	ああ、望みは大海のごとし。夢でも見てんのかい、槍や刀の持ち方も知らないで。侍になるのも楽じゃないもんだ。運を守って働く連中にはきっと不幸せよ。それは俺が出世してから言ってくれ。弓矢八幡大菩薩も将来があれだ。俺はもうつくづく貧乏が嫌になったんだ。兄貴、一緒に連れてってくれ、頼む。まだ言ってるのか？ つまらない望みは捨てろ。俺は町まで車引っ張っていく。いい加減にしなさい、馬鹿者！ 兄さん、夢を見てるんだよ。長浜へ行けば出世の種が転がってると思ってるんだ。
00:04:15	困ったもんだ。宮城、不相応な欲を起こして。藤兵衛ばかりじゃない、源十郎だって同じことだ。商いいいが、土作さ紛れに儲けたような金は決して身につくもんじゃない。金が入れば、またその上に欲が出る。それよりもまあ、戦に備えて支度をしとくことだな。源十郎が帰ったら、お前からよく意見をしてやりなさい。はい、ごめんくださいませ。
00:05:38	これは何を言ってるんだよ。あの品物がこんなに。持ってみろ、見たことあるか。早く見せたかったんだよ、どんどん売れてきたんだよ。これが商いというもんだ。お前にも分かっただろ。藤兵衛さんは一緒じゃなかったのか？ あいつな、長浜の市の人混みで立派なお侍を見ると.....
00:06:10	俺の止めるのも聞かずに、その後をくつついてしまった。「命を投げ出して忠勤を励みます。乞食も家来にできるか。しかも戻るなら具足をつけてこい」。「具足？ 具足と槍があれば家来にしてやるぞ、行け乞食」。それだけあればその辺になれますか。何だ、まだいるのか？ 具足と槍を持ってこい！
00:07:34	美しいね、嬉しいだろ。綺麗だ、お盆とお正月が一緒に来たような。来る年も来る年も、せめて着替えの一枚も買いたいと思いつながらどうにもならなかったが、やっと望みを果たした。どうだ、その嬉しそうな顔は。.....この小袖が嬉しいのではありません。
00:08:08	買ってくださるあなたの心が、あなたさえいてくだされば私はもう何にも欲しくありません。干し油、干し粉、甘酢、餅.....金だ、金がないから辛くもなるんだ。望みもなくなっちゃうんだ。もっと働くぞ、もっと儲けるぞ。ああっ、焼けるだけ焼き物を作るんだ。
00:09:06	あの通り、銀三枚に売れたんだ。もうおよしなさい、お金はこれでたくさん。名主さんの話では明日にでも柴田様の軍勢が来るかもしれんと言います。こんな時を見かけて行かずとも。.....なーにを言ってるんだ、戦だからなおいしいんだ。それ見たことか、儲け時じゃないか。前にうまくいったから、この次もまたうまくいくとは限りません。あなたの身にもしものことでも.....。取り越し苦労はやめろ。御飯を。
00:09:37	兄さん心配するな。あんなボロを着た百姓を家来に雇うような侍はない。もう帰ってくるよ、心配しなくても。さあ上がって一杯お飲み。さあ、牛脚（こし）のような姿になってしっかり回すんだ、しっかり。はい。仕事にならない、早く仕上げてしまわないと間に合わないんだよ。お仕事の邪魔になるからそこに座ってなさい。

時間	セリフ内容
00:10:56	さあさあ、もう一息だよ。人柄が変わったように気ばかり焦って。夫婦とも稼ぎで気楽に働いて楽しく日を過ごすことができればと、そればかりを願っているのです。望みがあるから働いたんだ。焼き上がったらまた長浜行こう。今度はうんと金を儲けるわ。分け前はくれるだろうな？ 当たり前だ、三つに一つはお前にやるよ。金を手に握ってみたいうちの人も、兄さんも。
00:12:29	今度ほど一生懸命に働いたことはない。何もかも投げ込んでしまってさ。うちもこれでしくじったら二人ともどうなるか分からない。親子三人楽しく暮らせればそれでいいのに。橋を渡って.....男の人には勝てない。うちのような地道な人があんなになって。戦は人まで変えてしまうのね。でもお金を儲けようというのならいいじゃないか。何だろう。起きてください、起きて！
00:13:24	噂に違わず柴田の軍勢が来たんだな。うん、藤兵衛。見える見える。裏の人が雲の子を散らすように逃げていくぞ。どうしましょう。今、火を絶やすことはできねえ。火を消していってもらかな。出てくる。（騒音と悲鳴）
00:14:47	人夫に駆り出されるぞ。狼みたいな奴らだ。もう一晩待ってくれりゃいいのにな。逃げましょう、ぐずぐずしてると危ない。この窯を潰されちゃせっかくの分け前が不意になる。とにかく飯を炊いておけ。山へ行く弁当の用意をするんだ。お浜、こんなところで.....。
00:17:24	早くいただきましょう。どうしたんだろう。.....うちの人知らないかい？ いえねえな。静かになった。鉄砲の音も少なくなったようだ。源十郎どこへ行く。今降りたら危ないぞ。侍はすぐ引き上げていく、もうすぐ辛抱しろ。待て待て、待ったほうがいいぞ。そんな呑気なこと言っていられない。.....行かないでください。火が消えたら、かまはもう諦めてください。
00:19:14	火は消せねえ！ 見せられるものか！ 火が消えちまった！何か隠したんだろう？ よし、調べてみる！ 何だ、焼き物か？ さあ、急いで運び出せ！ やっぱり長浜に出るのか？ 長浜は無理だから船で湖水を渡る。そうだ、阿浜は船頭の娘だ、船を漕ぐのはお前の役目だ。途中は大丈夫でしょうか？
00:21:54	裏道伝いにおのえの浜へ出よう。だが船が手に入るか。おのえの浜へ出りゃ捨て船の一艘や二艘はある。さあすぐ窯出しするんだ。陸（おか）で行けば今頃はもう命がなかったね。明日の朝までには大溝へ着く。今よりももっと繁盛だぞ。お前も俺も今度は大金持ちだ。宮城も阿浜も金持ちの女房だ。中野郷へ蔵を建てろ！
00:25:17	違う、幽霊じゃない。海津の船頭だ。（海賊に襲われ絶命する船頭の叫び）.....途中、海賊にやられた。用心しろよ。見つけられたら命もない。女は気をつけろよ。戻りましょう。これはきつと行ってはいけないという印です。女は岸に戻そう。俺たちは運を天に任せる。行かないでください。私は行こう。この人から目が離せば.....女はさらわれるぞ。
00:27:07	どうしても行くなら私も行きます。どこまでも連れて行ってください。お前には源市がいるさ。連れて行ってください。おい、阿浜戻るんだ。思ったらすぐ帰る。十日とはかかるまい、家で待てる。あなたも気をつけて。賊が出て手向かわないでくださいよ。ああ、分かっている。表街道行っちゃだめだぞ。裏道を通して、美濃街道の裏山へ入るんだ。当分はうちの方へは近寄るな、いいか。
00:28:03	辛い苦しいと言ってもしばらくだ。我慢しろ、なあ。藤兵衛さんも阿浜さんも頼みますよ。いいよ。おい、源市を頼むぞ。たんまり銀を持って帰って、びっくりさせてやるでなあ。侍になれる.....侍だ、侍だ！

時間	セリフ内容
00:33:23	(遠くの悲鳴)
00:43:15	むしろに並ぶ焼き物を見て、私は自分の目を疑いました。青葉のキラキラと光っているのが、水晶を散りばめたように見えるではありませんか。父に教えられて少しは物を見る目を持っています。美しいものができるのですね。お目にかかってお話が聞きたかった。他人に伝えてはならぬ秘伝でもあるのですか？ 秘伝というほどのこともありませんが、薬の掛け塩梅や.....
00:43:57	土の扱い、長年の手慣れでございまして。手慣れの末の美しさ。優れた腕のお方から初めてあんな美しいものができるのでしょうか。おさらいします、これは私の作ったものではありませんか？ あなたの焼いた器でお酒がいただいてみたくなりました。方々のお目に留まって、幸せなやつだ。片手間の仕事ではございますが、自分のこしらえましたものは子供のような心持ちがいたしまして。
00:45:12	大事にかけてくださるお方があると嬉しくてなりません。お立派なお座敷であなた様のような美しいお方のお手に触れるかと思うと、夢のような幸せでございます。いいえ、私のような落ちぶれ者の手にかかるとは、心を込めたお作が泣きましょ。お一つ。自分の作ったものがこれほど美しく見えたのは初めてです。ものもところによって.....
00:46:04	こうも値打ちが変わるものか。茶碗も皿も立派なお座敷に出世をして、様になっています。あなたの腕は貧しい田舎に埋もれて終わるものではありません。あなたは持っている才をもっと豊かにしようと思いにならなければ。.....それにはどうすればよろしいのでございましょう。若狭様とお語らいなさればよい。またと言わず、この折にお契りなされたらよい。
00:50:55	あなたは私のものになりました。
00:55:00	私のために命を尽くしてくださらなければいけません。お奉行様、話しますか？ 拾ったんではありません。柴田勝家が陣中にその人ありと聞こえたる平塚為広は名もなき雑兵の手にかかるとするか？ しかし、しるし(首級)を持ってきたからには貴様の手柄に違いない。褒美を取らせよう、何なりとも望め。.....具足と槍を。よし、取らせよう。侍大将です！ 平塚為広という豪傑を仕留めた方だ。おう、お名前は？ 「宮様の家中、伊勢守の坂の.....藤兵衛様だ！」
01:03:42	あやかりたい奴はよく見とけ。俺はこの足で国へ帰るのだ。この姿を見せてやる者が待っているのだ。そんな暇はない。お頭、出世祝いを兼ねてのご披露の見せ所だ。家来一同、楽しみにしておったんですよ。よし。今、この左衛門の.....中野郷藤兵衛、旧領を申し付ける。関をここに組んで使わずぞ。ありがたくお受けいたせ。ありがとうございます！
01:05:13	あなた様のご出世にあやかっただけのお杯を一ついただきたい。私にも一つ。どうしてまたあのような名だたる豪傑を討ち取りなされましたか？ 私ども明日への参考のためにぜひお聞かせください、お願いします。
01:05:50	次に築城、すなわち城を構えることだな。
01:06:27	これさえあれば何もいらぬよ。ずいぶん偉くなったようだね。夢に見ていた手柄を立てて、立派な侍になることができたんだね。お前が出世をしてる間に、私こんなに出世をしたよ。こんな綺麗な衣装を着て、紅を白粉を濃く塗って、好きな酒をたらふく飲んで。

時間	セリフ内容
01:07:41	毎晩違う男と寝ているよ。立派に女の出世じゃないか、満足だろう、本望だろう。人が偉くなるためには嫌な辛抱をしなければならぬさ。女房がこんなに落ちぶれても、お前が出世すればそれでみんな帳消しさ。今夜お前もお客になって……。阿浜自身、出世もお前がいればこそだ。……私などどうなってもいいと思っていたんだ。出世すれば褒めてくれると思ったんだ。お前がこんなになってるとは……。
01:08:50	知らなかった。元の私に洗い上げることができるか。……できるとも。それができなければ私は死んでしまうだけだ。……できる、きっと元のお前にする。……いく度死のうと思ったか分からない。もう一度会わなければ死にきれない。これとこれと、少し足りないが曲げてくれないか。それではこれはこっちに置いときましょうか。それも欲しいんだ。朽木屋敷まで来てくれ、足りない金は払うからな。朽木屋敷……。
01:10:13	そうだ、あの山陰の朽木屋敷だ。お金をみんなあげますか。帰ってください。……待ちなさい、何かご用ですか？ 恐ろしいことだ、禍事だ。何がですか？ よくお前の顔を見せてほしい。私の？ そうだ、立ち話もできる、さあこっちへ来なさい。お前の顔には死相が出て、何か怪しいものに会いはしなかったか。
01:11:19	いえ、別に。お前、うちはないのか、妻子はないのか。お前を頼りにするものがあるなら早く帰れ。この上さまよってはいは命がない、早く帰りなさい。……なぜでございますか？ わけはない、命がなくなるのだ。私は今、朽木屋敷で若狭さまと楽しい日を過ごしているんでございます。……それが死霊じゃ。
01:12:01	望んではならぬ恋を望んだのじゃ。妻子が愛しくはないのか、妻子も命も捨てるのか。待ちなさい、それほど行きたくば行くがいい。だがみすみす取り殺されるものを見捨ててはおけない。呪文を授けよう。来なさい。その目にその耳、しかと死霊の恐ろしさが分かれば夢も覚めるさ。
01:13:46	あんまりお帰りが遅いので案じておりました。何やらお元気のないお姿、どうなされました？ もう外へ出てはなりませぬよ。ご一族が滅ぼされてしまいなされると、もう侮り下げすみ、あらぬ雑言を吐くのです。源十郎様、もうどこへもやりたくない。この屋敷を捨てて私の国へ参りましょう。
01:14:45	源十郎様は私の生涯の夫でいてくれますね。許してください、私は……私は嘘をついていたのです。私には子供がいます、国に、戦の中に残してきたんです。……そのようなことはもう忘れておしまいなさい。帰らせてください。いいえ、帰しません。さあ私と一緒に国へ帰りませぬ。何やら……
01:15:51	(経文を) 肌につけている。源十郎様、体に書いたものは何。なぜ契りを交わしたのに。……わからない、なぜこんな過ちを起こしたのか。男は一旦の過ちで済もうが、女は済まぬ。お許してください、私は元の場所へ帰してください。……去りはせぬ。呪い、それを拭きなさい。拭わなければ許しはできぬ。
01:16:53	恐ろしいことをしていただきました。妻でもお側に置いていただきとう存じましたが、若狭様はこの世の運の情けも知らずに儚くなられて、そのご不憫なお姿を見るにつけ、せめてただ一度女らしいお幸せをお知らせ申したいと。
01:17:32	姫様をお連れ申し、そして彷徨い出てまいったのです。その願いが叶い、あなたのような良いお方に巡り会い、一生にただ一度のお語らい。やっと想いを遂げられた喜びのさなかに、今お帰りなされては……。

時間	セリフ内容
01:18:03	二度と会うこともできません。姫様の幸せをそんな儚いものにされてお心に咎めはしません が、口惜しくは思われませんか。お父様、こんな恐ろしいお心は解してください。そして末永くお姫様と末永く。
01:18:36	(恐ろしい叫び声)
01:20:13	夢でも見ているのか。ここが一間死に絶えた、あの朽木の屋敷跡だ。こいつ、口から出まかせ を。.....このご神宝が屋敷のどこにあったと言うのか。怪しい奴だ、体を改めろ。そりゃ違 う、わしの金だ、返してくれ！ 黙れ。.....牢にぶち込んでくれるんだが、今はその牢屋も柴田 勢に焼かれてないんだ。情けだと思え。幸せな奴め。
01:24:37	そんなお話はおやめになって。お疲れでございましょう、お酒もできております。お鍋も食べ ごろに煮えておりますから。.....別の酒の味だ。静かだな。あ、源市、さすがに寝たか。.....戻 った。戻った。心配させて悪かった。
01:30:53	おい、宮城、宮城！ 源十郎、お前夢でも見てると違うか？ 宮城は落ち武者に殺されたよ。 えっ、殺された？ 無事でいてくれりゃどんなに喜んだか知れないと思うんだが、かわいそう に。宮城が死んでから、この子はわしが引き取っているのだが、急に見えなくなったので昨夜 から大騒ぎだ。いいものは争えんものじゃな、お前が帰ってきたのをこの子が.....。
01:32:23	いくら言ってもお前さんは馬鹿だから、自分で痛い目に遭わなきゃ気がつかないんだね。 戦が俺たちの望みを歪めてしまったんだ。私の苦勞を無駄にしちゃ嫌だよ、元気を出しておく れね。死んではおりません、私はあなたのそばにおります。あなたの迷いももう消えました。 本来の場所で本来の姿に戻るのです。さあ。
01:33:48	早くお仕事を。
01:34:48	亡くなったとき、この世の人ではなくなったのです。これが世の中というものでしょうね。お 前さん疲れてたの。温かいものがうまいよ、あったかいうちにお食べ。兄さん、冷めないうち に。